OPIc を活用した英語コミュニケーションスキルの評価とスキルアップ研修の効果

大久保 雅司*1

*1：NEC マネジメントパートナー株式会社

◎Key Words グローバル人材育成，英語コミュニケーション能力，スキルアセスメント

1. はじめに

グローバル人材育成における実践的な英語コミュニケーション能力の必要性が高まる中，企業ならびにアカデミック領域においては，養成にかかる施策やアセスメントの方法にも関心が集まっている。このような状況下，当社では 2013 年 4 月より英語コミュニケーションテスト OPIc(Oral Proficiency Interview - computer)を展開している。本稿では OPIc テストの概要と英語コミュニケーションレベルを判定するための ACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages 全米外国語教育協会)基準について説明するとともに，国内リリースから 1 年にわたる利用状況と評価レベルの実態を報告する。あわせて，英語コミュニケーション能力向上を目指す当社研修コースのトライアル状況からその効果を考察する。

2. Opic 概説

2.1 OPIc とは

OPIc は，ACTFL の公認評価者と受験者が 1 対 1 の面談形式で行うインタビューテスト OPI(Oral Proficiency Interview)を，受験しやすい iBT(Internet Based Test)形式で実施できるようにしたテストである。

評価は，英語の語彙力や文法の知識だけでなく，実際の業務や生活の中でどれだけ効果的かつ適切に英語を駆使できるかを測定するコミュニケーション能力評価となっており，最近では大学の授業での活用や留学時のレベル判定等にも利用されている。

テストの開催・受験は，当社会場（東京・大阪）の他にも，実施仕様を満足する外部のテスト会場（インターネット環境）でも実施可能といった利便性を有しているのも特長の一つである。

OPIc 紹介ページ　http://www.neclearning.jp/opic/

2.2 テストの実施仕様と特長

OPIc テストの実施仕様と特長，画面イメージを記す。

表 1 OPIc テストの実施仕様と特長

テスト時間	約 60 分（オリエンテーション 20 分 テスト最大 40 分）
出題内容	Background Survey を通じて個人に合わせた問題を出題（職業，レジャー，趣味，スポーツ，旅行などのトピック）
問題数	12～15 問（問題毎の回答時間制限なし）
テストの特長	対面式インタビューに近い状況で実施 迅速かつ客観性・信頼性を確保した評価

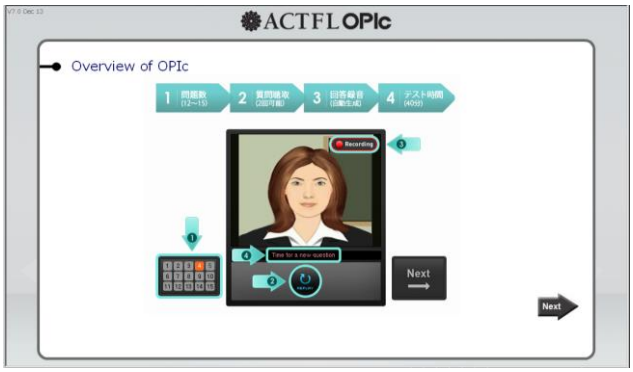

図 1 OPIc 画面イメージ

2.3 評価要素

ACTFL Speaking Guidelines 2012 基準により，以下の要素を総合的に評価する。

・Function/ Global Tasks（コミュニケーション継続能力）
・Text Type（文章構成力）
・Contents/ Context（状況に応じた表現力）
・Comprehensibility（質問意図の把握能力）
・Language Control（文法・語彙・流暢さ・発音）

2.4 評価レベル

評価結果は，以下に示す OPIc level 1～7 により判定される。

表 2 ACTFL 基準に基づく評価レベル

Level		Level 略称
Advanced	LOW	AL
Intermediate	HIGH	IH
	MID	IM3～IM1※
	LOW	IL
Novice	HIGH	NH
	MID	NM
	LOW	NL

※Intermediate MID は IM3(上)，IM2(中)，IM1(下)に細分化される。

3. 評価レベルの傾向分析

2013 年 4 月から約半年にわたる受験実績にもとづく評価レベルの分布・傾向は下記のように分析できる。

Advanced　3.0　%
Intermediate　52.8　%
Novice　44.2　%

また，他の Listening / Reading 能力を評価する英語テストとの関連性を確認したところ，高得点者でも IL

以下と判定されることが散見され，英語の Input 能力（Listening ／Reading）や語彙力・文法知識の高い受験者においても，Output 能力（Speaking）の欠如が認められる場合があるとの判断にいたった。

4. スキルアップに向けた学習と効果検証

4.1 研修コースの開発

当社では，2013 年 12 月に協業パートナーであるコトバンク株式会社（代表：小泉 純）と共同で「OPIc Web & Skype」研修コースを開発した。「音読」による基礎練習と Skype を利用した外国人講師との実践的な会話トレーニングの機会を組み合わせてカリキュラムを構成した e ラーニング形式の自己学習ツールである。本コースの特長は「音読」の練習方法にある。テーマに沿った対話文を，はじめは短く区切り，徐々に長さを増しながら暗記するまで繰り返し練習する。Listening スピードも調整可能とした。繰り返し練習の初期にはスクリプトを見ながら，徐々にこのスクリプトを見ずに話せるようにする。「読む」から「聞いて真似る」にレベルアップをはかり，最終的にはスクリプトや音声支援のない状態で，流れを損なうことなく適切な時間内で対話が進められるように訓練する仕組みである。各テーマは複数のユニットから構成されるが，各ユニット終了のタイミングで音読練習の成果を提出して添削を受ける。これにより学習の進捗管理を行いつつ，受験者にも達成感を感じてもらえるよう配慮した。

4.2 トライアルの実施状況

研修コースの一般販売に先だって，本コース受講の効果を検証することを目的として，社内メンバーを中心とする 30 名によるトライアル受講を実施した。トライアルにあたっては，「Work」「Cooking」「Internet」の 3 つのテーマを選択し，6 週間で合計 12 ユニットを学習することとした。この間には，複数回の音読添削と Skype レッスンが組み入れられている。学習修了率は，音読練習 97%，Skype レッスン 93%であった。また事後のヒアリング調査によると，トライアル期間中の平均学習時間は 40 時間～45 時間である。

4.3 評価方法と結果

研修受講による学習成果は，事前／事後の OPIc テストの評価レベルを指標としている。事前／事後テストの結果は以下のとおり。結果的には全受講者の内 60%がレベルアップした（レベルダウン 1 名）。

表 3 ライアル前後の成績分布

成績レベル	事前受験結果	事後受験結果
AL	－	1 人
IH	1 人	1 人
IM3	－	－
IM2	3 人	11 人
IM1	7 人	5 人
IL	11 人	8 人
NH	7 人	3 人
NM	1 人	1 人
NL	－	－

4.4 トライアル総括

事前／事後のレベル変化から，本研修は事前評価として NH や IL レベルの受講者に対し，レベルアップの効果が期待できると考えられる。また，逆にこの NH や IL レベルにはレベルアップの余地があり，対象者がもつ潜在的な英語力が，本研修によって顕在化したものと理解することができる。一方，受講後の評価レベルに着目すると多くの受講者が IM2 以下に留まっていることから，さらに上位レベルの評価を得るには，学習方法の工夫や必要な学習時間数の確保などを考慮した上で，更なる検証が必要である。

5. おわりに

本稿では，実践的な英語コミュニケーション力を OPIc で評価し，レベルアップに向けた研修の効果についてみてきた。今後ますますグローバル化が進み，推進されるビジネスの現場においては，これまでの Input 能力だけでなく実務に活用できる Output 能力のレベルアップが急務である。同時にこういった企業が求める人材の早期育成にあたっては，就職を背景に大学や専門学校，高校からの一環した学習と意図した英語活用機会の提供が欠かせない。OPIc をはじめ当社の研修サービスが教育の現場を支援する効果的なツールとして貢献できればうれしく思う。